

AOI通信

静岡音楽館AOI倶楽部情報誌
SEPTEMBER 2013 No.71

秋号

特集

AOI・レジデンス・クワルテット

インタビュー

高木綾子

CONCERT REPORT

AOIゆかりのアーティスト

Ensemble Feuilles Verts

静岡音楽館AOIの
市民会議委員ってどんな人？

シェフ池田の美味しいレシピ



AOI・レジデンス・クワルテット

AOI RESIDENCE QUARTET

KATSUYA MATSUBARA (Vn.)



松原勝也 (ヴァイオリン)

MIE KOBAYASHI (Vn.)



小林美恵 (ヴァイオリン)

YOSHICO KAWAMOTO (Va.)



川本嘉子 (ヴィオラ)

FUMIAKI KONO (Vc.)



河野文昭 (チェロ)

1995年、静岡音楽館AOIの開館とともに、その専属弦楽四重奏団として結成されたAOI・レジデンス・クワルテット。途中、メンバーの交代をはさみながら現メンバーとなって10年以上がたちました。W.A.モーツァルトとシューベルトをたびたび採りあげ、2000年には三輪眞弘・弦楽四重奏曲《皇帝》ハ長調(静岡音楽館AOI委嘱作品)を世界初演するなど、古典から現代までは幅広い作品で優れた演奏を提供しつづけています。また、共演者にはバスカル・ロジェ、野平一郎、横山幸雄、田部京子(ピアノ)、佐久間由美子(フルート)、ポール・メイエ(クラリネット)、福田進一(ギター)ほかの各氏をむかえています。今回、フルートの高木綾子さんを招いての11月9日(土)公演に向けての抱負を語るとともに、これまでの活動を年表で振り返ります。

今 回の定期演奏会では、ベートーヴェンの作品59を締めくくる、ラズモフスキー第3番と共に、バルトーク第3番、そしてゲストに高木綾子さんをお迎えして、モーツァルトのフルート四重奏曲第3番を演奏致します。どれをとっても聞き応えのある、大変しみなプログラムとなりました。

2度目の取り組みとなるバルトーク第3番は、彼が生涯に渡って収集した民謡のエッセンス、出会った様々な作曲家からの影響、そして2つの大きな戦争の狭間を生きた緊張感が、15分程の世界に凝縮され、深い味わいを与えているように思います。様々な意味で私達に近い音楽と言っても良いかもしれません。

そして天上の美しさで私達の心に染み入ってくるモーツァルトのフルート四重奏曲第3番。高木さんの豊かな音楽性が、われわれAOI・レジデンス・クワルテット・メンバーとのコラボレーションを通して、この佳品の魅力を余す所なく引き出してくれる事でしょう。



やがて、ラズモフスキー3曲の終幕を告げ、圧倒的な高みを示す終楽章のフーガへと手渡されます。

弾く者にとっては実に険しい道のりですが、音楽が私達4人を導き、勇気づけてくれる瞬間があります。霧が晴れ、遥か彼方に煌めく頂が見えるその時(その向こうには、さらに高く聳える後期四重奏曲の峰々が佇んでいるのですが…)、ワクワクするような高揚と感動に打ち震えるのです。

私達は年に一度、この定期のために集まります。その度にお互いの音楽性的変化、成長を感じ、インスパイアし合う喜びはそのまま、AOI・レジデンス・クワルテットの集中力に繋がっているようです。

ラズモフスキー四重奏曲第3番の余韻の中で、深い感動と充実を皆さんと共に感じる事が出来れば、と心より願っています。

AOI・レジデンス・クワルテット一同

静岡 室内楽フェスティバル2013
AOI・レジデンス・クワルテット
with 高木綾子(フルート)

2013 11/9 18:00 開演(17:30 開場)

全指定 ¥3,500(静岡音楽館倶楽部会員¥3,150、22歳以下¥1,000)
静岡音楽館AOI・ホール [Pコード=186-743]

出演/高木綾子(フルート)、松原勝也(ヴァイオリン)、小林美恵(ヴァイオリン)、川本嘉子(ヴィオラ)、河野文昭(チェロ)

曲目/B.バルトーク：弦楽四重奏曲第3番 Sz.85

W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲第3番 ハ長調 K.Anh.171 (K.285b)

L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第9番《ラズモフスキー第3番》ハ長調 op.59-3

これまでのおもな活動

1995年

静岡音楽館AOIの開館とともに、その専属弦楽四重奏団として松原勝也、小林美恵(ヴァイオリン)、白尾偕子(ヴィオラ)、安田謙一郎(チェロ)、いずれも日本を代表する弦楽器奏者たちにより結成。

7/22(土)

■共演者/横山幸雄(ピアノ)

■曲 目/C.ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調 op.10
G.クルターグ：弦楽四重奏曲第1番 op.1
R.シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 op.44



1997年

7/5(土)

■共演者/山本正治(クラリネット)

■曲 目/L.v.ベートーヴェン：弦楽三重奏曲 ト長調 op.9-1
P.グラス：弦楽四重奏曲第5番
W.A.モーツァルト：
クラリネット五重奏曲《シュタードラー》
イ長調 K.581

1998年

チェロが河野文昭に交替。

5/21(木)

■共演者/岡田博美(ピアノ)

■曲 目/K.ベンデツキ：弦楽四重奏曲第1番
F.シューベルト：弦楽四重奏曲第14番
《死と乙女》ニ短調 D.810
J.ブラームス：ピアノ五重奏曲 ヘ短調 op.34

1999年

6/13(日)

メンデルスゾーン弦楽八重奏

■共演者/ストリング・クワルテットArco
■曲 目/B.バルトーク：弦楽四重奏曲第2番 op.17, Sz.67
F.メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲
変ホ長調 op.20

7/4(日)

間宮芳生の声 1952→99…

■共演者/岩井理花(ソプラノ)
■曲 目/間宮芳生：弦楽四重奏曲第1番
セレナード第1番

2000年

7/18(火)

■共演者/川本嘉子(ヴィオラ)

■曲 目/L.ヤナーチェク：弦楽四重奏曲第2番
《ないしょの手紙》
三輪眞弘：弦楽四重奏曲《皇帝》ハ長調
F.シューベルト：弦楽五重奏曲
ハ長調 op.163, D.956



2001年

ヴィオラが川本嘉子に引き継がれる。

11/27(火)

■共演者/加藤知子(ヴァイオリン)、バスカル・ロジェ(ピアノ)

■曲 目/L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第5番
イ長調 op.18-5
H.ヴィラ＝ロボス：弦楽三重奏曲
G.フォーレ：ピアノ五重奏曲第1番 ニ短調 op.89

2002年

12/13(日)

■曲 目/J.ハイドン：弦楽四重奏曲第76番《5度》
ニ短調 op.76-2, Hob.III-76
D.ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲第12番
変ニ長調 op.133
J.ブラームス：弦楽四重奏曲第3番
変ロ長調 op.67

2003年

6/14(土)

■共演者/白尾隆(フルート)

■曲 目/I.ストラヴィンスキー：3つの小品
尹伊桑：フルートと弦楽四重奏のための五重奏曲
F.シューベルト：弦楽四重奏曲第13番
《ロザムンデ》イ短調 op.29, D.804

2004年

5/15(土)

バルトーク、バルトーク、バルトーク!

■曲 目/B.バルトーク：弦楽四重奏曲第1番 op.7, Sz.40
弦楽四重奏曲第3番 Sz.85
弦楽四重奏曲第6番 Sz.114

2005年

6/5(日)

ギター五重奏の語らい

■共演者/佐久間由美子(フルート)、福田進一(ギター)
■曲 目/L.ボックリニ：ギター五重奏曲第4番
《ファンタンゴ》ニ長調 G.448
F.シューベルト：四重奏曲《ノットウルノ》
D.96(Anh.II, 2)
池辺晋一郎：《君は土と河の匂いがする》
L.フローウェル：ギター五重奏曲



11/13(日)

■曲 目/W.A.モーツァルト：弦楽四重奏曲第15番
ニ短調 K.421(417b)
弦楽四重奏曲第22番
変ロ短調 K.589
間宮芳生：弦楽四重奏曲第2番
《いのちみな調和の海より》

2006年

11/12(日)

■曲 目/I.ストラヴィンスキー：コンチェルティノ
G.フォーレ：弦楽四重奏曲 ホ短調 op.121
R.シューマン：弦楽四重奏曲第3番 イ長調 op.41-3

2007年

11/11(日)

■共演者/ポール・メイエ(クラリネット)
■曲 目/F.シューベルト：弦楽四重奏曲第12番
四重奏断章 ハ短調 D.703
A.ベルク：抒情組曲
J.ブラームス：クラリネット五重奏曲 口短調 op.115



2008年

7/13(日)

シューベルトの午後

■共演者/田部京子(ピアノ)、吉田秀(コントラバス)
■曲 目/F.シューベルト：弦楽四重奏曲第14番
《死と乙女》ニ短調 D.810
五重奏曲《ます》
イ長調 op.114, D.667

11/16(日)

ロシアの音楽Ⅲ
ロシア・アヴァンギャルドとその周辺
「それは、ロシアから始まった」

■共演者/野平一郎(ピアノ)
■曲 目/I.ストラヴィンスキー：3つの小品
N.A.ロスラヴェツ：弦楽四重奏曲第3番
D.ショスタコーヴィチ：ピアノ五重奏曲 op.57

2009年

11/8(日)

■曲 目/J.ハイドン：弦楽四重奏曲第38番
変ホ長調 op.33-2, Hob.III-38
弦楽四重奏曲第79番《ラルゴ》
ニ長調 op.76-5, Hob.III-79
W.A.モーツァルト：弦楽四重奏曲第19番
《不協和音》
ハ長調 op.10-6, K.465
5つのフーガ K.405(J.S.
バッハ：《平均律クラヴィア
曲集》より)

2010年

2/10(水) 会場/菊川文化会館アエル

2/11(木・祝) 会場/伊豆市生きいきプラザ

3/22(月・祝) 会場/御前崎市市民会館

5/5(月・祝) 会場/グランシップ

世界の音楽と動物たちのカーニバル

■共演者/佐久間由美子(フルート)、高橋和巳(クラリネット)、
野平一郎、長尾洋史(ピアノ) ほか

■曲 目/C.サン＝サーンス：《動物の謝肉祭》

10/23(水)

子どものための弦楽四重奏

■曲 目/J.ハイドン：弦楽四重奏曲第67番《ひばり》
ニ長調 op.64-5, Hob.III-63 第1楽章
L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第16番
ヘ長調 op.135 第3楽章
A.ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番
《アメリカ》
ヘ長調 op.96, B.179 第1楽章
B.バルトーク：ミクロコスモス Sz.107
(T.ジェルイ 編)より
S.プロコフィエフ：つかの間の幻影 op.22
(S.サムソフ 編)より
P.ヒンデミット：パロディ《ミニマックス》
(軍楽隊のためのレパートリー)より

2011年

11/18(金)

■曲 目/A.ボロディン：弦楽四重奏曲第2番 ニ長調より
第3楽章《夜想曲》
C.ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調 op.10
L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番
《ラズモフスキー第1番》
ヘ長調 op.59-1

2012年

11/17(土)

■曲 目/J.S.バッハ：フーガの技法 BWV1080 より
R.シューマン：弦楽四重奏曲第1番
イ短調 op.41-1
L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第8番
《ラズモフスキー第2番》
ホ短調 op.59-2

Interview

高木綾子

Ayako TAKAGI

(フルート)

11月9日(土)「AOI・レジデンス・クワルテット」公演にゲスト出演いただく高木綾子さんにお話を伺いました。

——今回、モーツァルト作曲のフルート四重奏曲第3番を演奏していただきますが、この曲についてお話を聞かせ下さい。

モーツァルトの《フルート四重奏》といえば、第1番という方が多いと思います。実際、第2番から第4番を演奏する機会は少ないですが、これら3曲もそれぞれとても良い曲で、特に今回演奏させていただく第3番はとても聞きやすい曲なので、どなたでも楽しんでいただけたと思います。

——最近、モーツァルト四重奏曲全曲のCDをリリースされていますね。

この録音は、メンバーと合わせる時間があまり取れず、録音する場でメンバーと話し合いながら作り上げていきました。ソロCDだと、まず全曲通して録音し、そこから少しずつ直していきますが、今回はメンバー4人で話し合いながら、自分たちにしかできない「モーツァルト」を作り上げようという思いで制作できたことが、自分にとってとても魅力的なことでした。

——フルートの魅力について。

私が高校1年生のとき、今使用している楽器に出会い、その楽器と一緒に音楽を作る楽しさや魅力を感じるようになりました。フルートは、数ある楽器の中でもっとも「声楽」に近いと思っています。息を直接管に通す、それはまるで人の声帯の代わりに楽器の本体があるという感じでしょうか。そのうえで、人の声ではうまく表現できない部分を楽器を上手に扱うことで表現していくことを心掛けて演奏しています。そこがフルートの魅力だと思います。ちなみに高校1年生のとき出会った楽器を今でも使っているんですよ。

——もし、フルート以外の楽器を演奏できるとしたら、何がいいでしょうか。

チェロですね。フルートは高音でメロディーを演奏することが多いので、バス(低音)に「無いものねだり」的な憧れを感じています。同じ低音でも管楽器ではなく弦楽器がいいですね…(笑)。

——それでは、もし、音楽家になっていなかったら、何をされていたと思いますか。

幼少の頃は、音楽に合わせて動くことが好きだったので、バレエやフィギュアスケート、新体操などに憧れていました。今は、設計士です。家の間取りを見るのが大好きで、住宅の折込チラシの間取り図を見ては夢を膨らませています。自分の家を建てるようなことがあれば、自分で設計したいと思っています。せめて間取りだけでも…。

——演奏会に向けてメッセージをお願いいたします。

今回、小林美恵さん、川本嘉子さん、河野文昭さんと共演させていただきます。小林さんはアグレッシブな演奏が魅力的でお人柄も含め大好きな方です。川本さんとは一度、モーツァルトのフルート四重奏曲第1番で共演していますし、河野さんとは私が学生の頃からアンサンブルofトウキョウで何度も一緒にしていますので、今回この三人と一緒に演奏できることをとても楽しみにしています。また、モーツァルトのフルート四重奏曲第3番をCDではなく、ライブで演奏させていただくのは、私自身初めてのことですのでその点もとても楽しみです。

——お話をいただきありがとうございました。11月の演奏会を心待ちにしています。

インタビュー：静岡音楽館AOI 学芸員 竹内啓

高木綾子さんの おすすめCD



シランクス～近代フルート・ソナタ集

ジャン＝ピエール・ランバル

(株)ワーナーミュージック・ジャパン 品番：WPCS-11022

自分で買ったCDです。ランバルの演奏会で感動して、演奏後にサインしてもらった思い出の盤。高校生のときに、毎晩聴き込んでいました!!

静岡音楽館AOIの 市民会議委員って どんな人? ⑦

AOIがコンサートを制作する際には芸術監督、企画会議委員の意見の他に、音楽にゆかりのある方や公募により選ばれた委員で構成された市民会議の意見も反映しています。聴衆に近い視点から意見をいただくことによってより良いコンサート作りに努めております。このコーナーではそんな市民会議委員を紹介していきます。



宮城 聡

SPAC-静岡県舞台芸術センター
芸術総監督

岡とのかかわりは、SPACが開館した1997年に当時の芸術監督の鈴木忠志さんに招かれて1年に一度、県民参加の芝居の演出をするようになって以来です。舞台芸術公園に滞在しての演出でしたし、97年からずっと

ですから、このあたりが変わっていくのをつぶさに見てきました。今ではこちらに居を構え、時折東京に演劇を観に行くという生活で、すっかり静岡人。芝居もサッカーのように、静岡から直接世界をめざす環境ができればいいなと思っています。幸い、2007年に始めた小学校6年生～高校2年生を対象にしたシアタースクール(夏休みに1か月ほど稽古して1本芝居を作るプロジェクト)に参加した子どもたちが、SPACがあるから静岡で演劇が続けられそうだということで地元に残ってくれるようになり、少しずつ根付いてきたという実感があります。

私の演出する作品では、音楽は俳優による生演奏です。もともとは俳優のトレーニングの一部として始めたものでしたが、今ではなくてはならないものとなりました。俳優の能力は大きく分けて、せりふ、動き、リズム感の3つの柱で成り立っていると私は考えます。リズム感が悪いと、せりふも動きもだめ。そしてリズム感が悪いとアンサンブルがきれいに揃いません。私の思うところのリズム感の良し悪しは、相手の身体から出ている欲望(生理的な快適さ)を感じ取れるかどうか、相手の発信している感覚を受け止められるかです。そのセンサーを敏感にしてゆくために、パーカッションを用いることにしました。パーカッションは言葉とは異なり、意味を持たないのでより鮮明に磨かれます。そうして、そのうちにせりふの一種としてあいづちのようなかたちで入れていくようになり、稽古だけでなく舞台でもやろうということになりました。最初は部分的でそれ以外は既存の音楽だったのでだんだん増えていって、あるところから全て生演奏になったのです。今や私の芝居の芯だと言えます。

せっかく静岡の駅前でこんなにもクオリティの高いコンサートが聴けるのですから、もっと多くの人にそのことを知ってもらいたいですね。SPACもそうですが、ここでしか聴けない、見られないものを静岡の人たちに体験してもらいたい。富士山と同じく、頂上が高くあることと、裾野を拡げるということは車の両輪で、どちらも大事だと思います。そのためにも発信力、広報に注力していただきたいです。(談)



学芸員雑記

静岡音楽館AOI学芸員
関本 淑乃

譜めくりのはなし



当館では年間に15～20本のコンサートを行っている。その中にはソロ・リサイタルもあれば、オーケストラ・コンサートもあり、またピアノと他の楽器によるアンサンブルもある。ピアノを用いたアンサンブルの場合、たいていピアノの楽譜をめくる人が必要となる。英語ではページ・ターナーと言うのだが、日本では一般的に「譜めくり」とよんでいる。譜めくりは出演者が連れてくることもあるが、「譜めくりの用意をお願いします。」と言われることがほとんどで、そうすると主催者で手配する。当館では通常、職員がその任を担う。

譜めくりはピアニストのすぐ横に座るわけなので、見ようによってはどのお客さまよりも一番近くで演奏を聴くことになる。うらやましい、と思われるかもしれない。ところが、実際には演奏を聴く余裕などまったくない。ひたすら楽譜を追って、間違えずにめくることのみ集中しているため、聴くなんてことはとても無理。しかもテンポが速い曲だと恐怖である。個人的にはゆったりとした抒情的な作品よりは、速くて激しい作品のほうが弾くのも聴くのも好きなのだが、こと譜めくりに関しては別である。もちろん、リハーサルから立ち会った、本番前のリハーサルは最終チェックなので、全曲は演奏しないことも多いのに、作品によってはページに戻ることもあり、そんな時にはそれこそ必死である。何せ、失敗すると自分のせいだ。演奏が途中で止まってしまうかもしれないのだ。そのプレッシャーたるや己が演奏するときの比ではない。

6月におこなわれた「クレメンス・ハーゲン 河村尚子 デュオ・リサイタル」でも譜めくりをした。当館でのコンサートが今回のツアーでは3か所目だったためか、直前のリハーサルは全部を演奏することなく、全曲を弾いたわけでもなかった。そして迎えた本番。リハーサルよりも一段と熱が入り、いっそうエキサイティングな舞台だったわけだが、こちらは冷や汗もので、せっかく極上のアンサンブルだったのにチェロの音なんてちっとも耳に入らな

なかった。せいぜいやっぱりハーゲンの奏でるチェロの音はよく響くなあ、すばらしい、と思ったくらい。毎度のことながら、アンサンブルの醍醐味を味わえなかったのは返す返すも残念だった。

でも。リハーサルのときのやりとりがみられ、書き込みがいろいろされている楽譜を目にすることができるのは非常に嬉しい。このときはドイツ語での会話だったからさっぱりわからなかったけれど(かろうじてニュアンスだけは理解できた……かな?)、アンサンブルだからこそ、2人で音楽を創り上げていく様がわかってとても興味深い。譜めくりならではと

いったところだろうか。さて、今年もまもなく静岡・室内楽フェスティバルの季節がやってくる。3年目を迎える今回も、様々な室内楽を聴くことができる。管楽器アンサンブル、弦楽四重奏、そしてピアノ五重奏も。そうそう、アマチュアでアンサンブルを楽しんでいる方々が出演する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、まさにバラエティに富んだアンサンブルが楽しめる一日だ。

プロであれ、アマチュアであれ、どの演奏者たちも、緊張の中にも一人のときには見せない、誰かと一緒に演奏することの喜びがふれている。聴いている人たちにもそれが伝わるといい。もしかして聴いているうちに自分も演奏したくなるかも。それもまた一興である。



コンサートレポート

CONCERT REPORT

アンサンブル・ アンテルコンタンポラン

2013年5月6日(月・祝)

佐野光司(桐朋学園大学名誉教授・音楽評論家)



撮影：日置真光

ピエール・ブーレーズの肝入りで1976年に結成された「アンサンブル・アンテルコンタンポラン(以下E.I.と略)」という合奏団は、その編成に他にはない特徴を持っている。静岡音楽館AOIの芸術監督・野平一郎がプレ・トークで話したように「このアンサンブルは、室内楽でもオーケストラでもない、という構想で作られた自由な合奏団」である。31名のソリストを集めたE.I.は、ほぼ2管編成だがヴァイオリン3、ヴィオラ2、チェロ2、コントラバス1と弦楽器が少ない。反対にピアノが3台、打楽器奏者3人と多く、他はハープ、そして木管楽器、金管楽器となる。通常のオーケストラと較べると管楽器と打楽器が多く、音色彩という面から考えると、現代音楽に非常に適した多彩な編成と言えるだろう。今年には18年ぶりの2度目の来日とあって多くの期待が寄せられた。

E.I.がアンサンブルとしては世界最高の位置にあるのは言うまでもない。日本公演は東京国際フォーラムでの演奏の後、静岡音楽館AOIに来たのは、ひとえにE.I.でピアノを弾いたこともある野平のおかげであろう。

曲目はクロード・ドビュッシーのフルート、ヴィオラ、ハープのための《ソナタ》(1915)、トリスタン・ミュライユの《セレンディブ》(92)、ピエール・ブーレーズの《シュル・アンシーズ》(98)の3曲だが、その演奏の見事に魅了された。

ドビュッシーの曲はLPやCDでこれまでも何度も聴いたし、授業でも使うことが多い。しかし今回の演奏を聴いて、初めてドビュッシーが意図した音色的な意味が分かった。ドビュッシーの晩年の《ソナタ》は、古典的な世界への回帰としばしば言われてきたが、今回の演奏は音響・音色彩を大事にしたもので、そこにはドビュッシーの新たな響きの地平が浮遊している。今回のように漂うような美しい響きの演奏は初め体験した。

ミュライユはグリゼーと共に「スペクトル楽派」とも言われるように、《セレンディブ》は鐘の音のスペクトル解析によっている。鐘の音のスペクトル解析による音楽と云えば黛敏郎の《涅槃交響曲》(57)が最初だが、黛の試みは時代に先行し過ぎて、日本ではその方法が持つ意味が理解されなかった。

ミュライユの作品の特徴は音響の内部構造の多様な変化の過程にある。そこには音への耽美的な眼差しと、音楽的時間と空間とが交錯するかのような揺らぎ方に独特な構成がある。スタティックな音楽でありながら、その中でも音が時折舞い上がるように揺らめく。それはあたかも音達が舞い漂う姿をみるかのようだ。

ブーレーズの《シュル・アンシーズ》はCDでも出ているが、生で聴くとこの特異な編成と音楽の意味がよく分かる。3台のピアノ、3台のハープ、3人の打楽器奏者という編成が醸し出すトータルな響きは、初期のブーレーズにはない新しいものだ。1970年代後半から80年代にかけて起こった「新ロマン主義」の世界的傾向を体験した後の作品であるだけに、ブーレーズの音楽には珍しく反復的な面が強い。彼は《レボン》(84)で決定的にそうした地平に歩み行ったが、《シュル・アンシーズ》ではその作法を一層押し進めている。3種の楽器の離れた配置によって、それぞれの音がどの位置から放射されるかがよく分かり、響きの多様な変化が音の空間的な位置と並行した意味を持っている。

E.I.を生で聴くのは2度目だが18年という歳月はこのアンサンブルに一層磨きをかけたことは疑いない。初代の指揮者ブーレーズ以来、2006年から指揮を執っているスザンナ・マルッキは5人目に当たるが、諸先輩の指揮者に劣らないきめの細かさ大胆さを持っている。

——お二人がフルート、オーボエを始めたきっかけを教えてください。

【井出】富士のふもとの小学校。音楽の授業の「オーケストラビデオ鑑賞」に釘付けになり、溜め息の出るほど美しい音色に心を奪われてしまったあの日から、ずっとフルートと共に歩んできました。

【鈴木】中学校で吹奏楽部に入部したのがきっかけです。島田二中という、その当時、全国大会連続出場をしていた学校に入学し、迷いもなく吹奏楽部に入りました。オーボエという楽器を初めて知り、とても上手でやたら面白い先輩にあこがれ、オーボエを選びました。みんなが知っていて、女子に人気のあったフルートやクラリネットよりも、希望者の少ない楽器を選びたがる、少しひねくれたところがありましたし。

——アンサンブルを結成したきっかけは?

【井出】オーケストラのお仕事の際、隣で吹かせていただいたことが出会いです。本番前の舞台裏にて、「静岡出身です!」「え? 私も!」「一緒にアンサンブルしたいですね!」「是非!」と、すっかり意気投合!

【鈴木】かねがね、フルートとのトリオで室内楽をやってみたいと思っていたところ、心引かれるフルーティストと出会い、結成することになりました。室内楽は、いろんな意味で相性が大事ですからね。ビビッときました。

——お二人にとってお互いはどんな存在なのでしょう。

【井出】純子さんはどんなことでも温かく受け入れてくれるお姉さんの様な方。もちろん音楽のお話もたくさんしますが、女性が二人いたら、楽しいおしゃべりはエンドレスに続きますね。いつか二人でパリを旅するのが夢です。【鈴木】かなり前向きな性格とちょっと不思議ちゃん的なキャラクターにとっても刺激を受けます。そんな彼女から生み出される音楽にも、二人ともお酒が好きなので、飲みながらする話は多岐にわたっていて、あっという間に時間がたってしまいます。

——ピアニストの野田さんとはこれまで共演されていますか? また、どんなピアニストかご紹介ください。

【井出】私は今回が初めての共演です。音楽的なことというのは、言葉で表現することがとても難しいのですが、彼はそういったことをとても繊細に捉える方で、その視野の広さ、引き出しの多さにいつも驚きます。また、常に作品の本質を見つめる誠実な方です。AOIの舞台上でどのような対話になっていくか、とても楽しみです。

【鈴木】私は、アフィニス文化財団のサマーセミナーで、一緒に室内楽をさせていただいたのが出会いで、それ以降、機会があると必ず、まずは野田さんをお願いしています。今回で4回目の共演です。井出さんのお話しのとおりですし、高い音

AOIゆかりの アーティスト

井出朋子さん(フルート)



鈴木純子さん(オーボエ)



第14回企画募集事業に選ばれ、10月にコンサートを行う
Ensemble Feuilles Verts (アンサンブル・フィユ・ヴェール)
の井出さんと鈴木さんのお二人に
お話をうかがいました。

——今後、どのような活動をしていきたいですか?

フルートとオーボエを基本形とし様々な形態のアンサンブル、例えば木管五重奏にも取り組みたいですね。また、富士山が世界文化遺産に登録されたことで文化・芸術面でも静岡県を更に盛り上げていきたいと思っています。未来を担う子供たちに音楽の楽しさ面白さを身近に感じてもらえる様な音楽鑑賞教室の活動も考えています。

——ありがとうございました。今からコンサートがとても楽しみです。

静岡 室内楽フェスティバル2013・第14回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業

Ensemble Feuilles Verts Trio Concert in 静岡
フルートとオーボエ〜清新な響き〜

2013 10/14(月・祝) 15:00 開演(14:30 開場)
全自由 ¥2,500(静岡音楽館倶楽部会員¥2,250、22歳以下¥1,000)

出演／井出朋子(フルート)、鈴木純子(オーボエ)、野田清隆(ピアノ)

曲目／G.ブラウン：《魔笛》の主題による二重奏

M.アーノルド：ブルジョワ組曲

J.ドゥメルスマン/F.Ch.ベルテレミュ：《ウィリアム・テル》の主題による華麗な二重奏曲 ほか

アンサンブル・フィユ・ヴェール 井出朋子さんの おすすめCD



MOZART・DUETTE FÜR FLÖTE UND OBOE
Wolfgang Schultz・Hansjörg Schellenberger
POCG-4131

聴く人の心に自然に語りかける歌心と、柔らかに溶け合う豊かな響きに包み込まれる、心地の良い音世界。おそらくこの編成における最高水準のこのCDは、3月に永眠されたフルーティスト、W.シュルツが遺してくれた録音のひとつ。生前、一度だけ彼のレッスンを受けたことがある。まるで、音楽に語らせているかのごとく自然体であり、且つ溢れんばかりの喜びに満ちたその音楽は、正に彼の温かな人柄を反映しているように思う。



聴講生 随時募集中!

2006年度より毎年開催している「ピアノ伴奏法講座」。今期より講座名を「ピアニストのためのアンサンブル講座」と改め、よりアンサンブルを意識した講座にしました。この度、第8期受講生6名が決定しました。10/26(土)から3/16(日)の修了記念コンサートまで、3名の講師の指導のもと、全10回の講座を行います。

第8期「ピアニストのためのアンサンブル講座」 受講生決定!

受講生 植野愛・瀬川裕美子・立川美香・谷合千文・長江美和・平井陽子

日 程／2013 ①10/26(土)、②10/27(日)、③12/7(土)、④12/8(日)、
2014 ⑤ 1/11(土)、⑥1/12(日)、⑦ 2/1(土)、⑧ 2/2(日)、⑨3/15(土)、⑩3/16(日)

内 容／〈奇数回〉13:30~19:30 実技レッスン
〈偶数回〉10:00~19:30 アナリーゼ
講義~奏者の視点から~②④
ピアノをめぐる音響を考える⑥⑧
実技レッスン

会 場／静岡音楽館AOI ホール(8階)、及び講堂(7階)

講 師／野平一郎(作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI芸術監督)、漆原啓子(ヴァイオリン奏者)、
向山佳絵子(チェロ奏者)、倉田尚彦(株式会社松尾楽器商会 調律師)*⑥⑧講義講師

聴講料／一般：奇数回¥2,000 偶数回¥3,000(第10回を除く) 22歳以下：¥1,000
10回通し券：一般¥20,000、22歳以下¥9,000

①、②はヴァイオリン、
③、④はチェロ、
⑤~⑧はトリオ、⑨は両者、
⑩は修了演奏会を開催予定。

Ticket de Smile

加盟店のご紹介



Ticket de Smile加盟店は静岡街中に57店舗!
ぜひご利用ください。

※チケット記載の日付(期間)に限り、1回ご利用いただけます。
※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です。
(店舗によって異なる場合があります。)

JR静岡駅北口から徒歩3分。AOIから徒歩20秒、JR高架下にある隠れ家的な2店です。

海山は、塩ちゃんこを初め、新鮮な駿河湾の鮮魚を毎日仕入れ、刺身・鮎・焼・揚・天ぷら等、リーズナブルな価格で提供しております。旬の食材で日替わり料理も充実。静岡厳選日本酒を飲みながら、春夏秋冬、旬にふれる…そんな居酒屋です。



骨太居酒屋 海山

TEL.054-272-8770

静岡市葵区葵区黒金町38-1

営業時間/17:00~24:00(日曜日定休、祝日営業)

http://www.js-co.jp/kaizan/

- 塩ちゃんこ 1人前 880円
- 新鮮駿河湾のお刺身盛り合わせ 1,480円
- 生ハムのシーザーサラダ温玉のせ 780円
- 串焼き盛り合わせ 5串 880円
- 静岡茶そば 580円・江戸前にぎり鮎 1,280円



■2~3名様1グループ 500円割引
■4名様以上1グループ 1,000円割引

根菜舌は雰囲気ある外観ですが、「とびっきり静岡」でも取り上げられた静岡で初めて出した根菜と牛タンの蒸籠蒸し鍋はリピーター率No.1!! 他にも季節の焼野菜の盛り合わせ、牛タンの炙り焼きなど牛タン料理と野菜料理が充実。肉と野菜をヘルシーに食べられます。



居酒屋 根菜舌

TEL.054-253-0100 静岡市葵区黒金町38-1

営業時間/17:00~24:00(日曜日定休、祝日営業)

http://www.js-co.jp/konsaitan/

- 牛タン根菜ほくほく蒸し鍋 1人前 780円
- 厚切り牛タン炙り焼き 1人前 1,280円
- 牛タンつくね串 2串 360円
- 海鮮コラーゲン美肌サラダ 780円
- 旬・季節野菜焼き盛り合わせ 980円
- ゴルゴンゾーラと蜂蜜のピッツァ 880円



■2~3名様1グループ 500円割引
■4名様以上1グループ 1,000円割引



今回ご紹介いただくのは地鶏のパテをパンズにはさんだ、地鶏のパテ・バーガー。このパテ、2007年の10月のコンサートで、「前菜:地鶏のパテ、赤ピーマンのマリネ、緑の野菜のアンチョビソース」としてレシピをお配りしています。覚えていてる人、いらっしゃいますか? バーガーにすると一味違った料理になりますね。こんがり焼けたパテのいい香りが漂ってきそうです。

地鶏のパテ・バーガー

- 材料
- パテ/地鶏ひき肉600グラム、玉ねぎ中1/2コ、しし唐8本、にんにく1片、片栗粉大さじ2、全卵1コ、バター、オリーブ油、塩小さじ1と1/3(塩によって、塩梅)
 - スパイス/クミンシード小さじ2、クミンパウダー大さじ2、ターメリック大さじ2、コリアンダー大さじ2、カイエンペッパー少々、黒胡椒小さじ1
 - バーガー/ハンバーガー用パン、トマト、レタス、ケチャップ、マヨネーズ

- しし唐をみじん切りにする。
- 玉ねぎをみじん切りにし、フライパンにバターを溶かし、焦がさぬように透き通るまで炒める。(7~8分)
- クミンシードをオリーブ油で、少しはじけるまで炒める。
- 大きなボールで、地鶏ひき肉、①、②、③、おろしたにんにく、片栗粉、全卵、塩、全てのスパイスを、粘りが出るまで丁寧にこねる。

- オリーブ油を塗ったパウンド形に流し込み、表面をならし、オリーブオイルを表面に塗り、220度のオーブンで25分前後焼く。(表面がおいしそうな焼き色になるまで)
- 冷めてから、15ミリ程度の厚さに切る。
- パンズを温め、上下に切り分ける。
- ハンバーガーのように、好みの野菜を重ねる。
- ケチャップ、マヨネーズなど、好みのソースをかける。



シェフ池田の
おいしい
レシピ



池田直樹

バス・バロン歌手
元・静岡音楽館AOI企画会議委員

AOI コミュニケーション ひろば

お客様の声

お客様からのご意見・ご感想を
紹介し、スタッフがご答えします。

ホール内が少し寒かった。

ご不便をおかけし、申し訳ありませんでした。ホールは全体を一定の温度に保つよう、調整されています。お座りになる位置によって、また、ホールにいらっしゃるお客様の人数によっても、寒く感じたり、逆に暑く感じたりされることがあるかと思いますが、恐れ入りますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

演奏中にごそごそ音を立てる人がいて気になった。

ご不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。自分ではそれほど大きくないと思っても、他の人にとってはうるさく感じてしまいます。また、意外と奏者にも聴こえているものです。皆さまのご協力があった初めて素晴らしいコンサートとなります。せっかくのコンサートが台無しにならないためにもご協力くださいますようお願い申し上げます。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成25年度をもって退会をご希望のかたは、平成26年2月末までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2013年8月末現在)50音順

- (株)アイテレック
- (株)静岡博覧堂
- (株)SBSプロモーション
- (株)タミヤ
- かわした歯科クリニック
- (株)戸田書店
- コカ・コーラ セントラルジャパン(株)
- (有)丸吉事務機
- (株)サンタモンコーポレーション
- 三菱電機(株)静岡製作所
- 静岡ターミナルホテル(株)
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2013-14

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協賛 アイフ不動産

HARVEST HOMES

コカ・コーラ セントラルジャパン株式会社

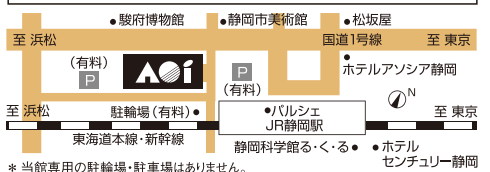
ホテルセンチュリー静岡

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待たされたお客様を優先してご案内いたします)。
- * 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。

託児サービス(AOIの主催事業に限り)
要事前予約(1週間前まで)・託児料:1人¥1,000
すわん TEL.054-255-5377(9:00~21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00~21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ
054-251-2200

AOI 検索